令和５年１０月号

ノア Smile

春日部セントノア病院
〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野１１１２-１
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp

～目次～

●病院短信　宮川　妙子
●日常の一コマ　山口　しのぶ
●いきいき看護・介護　渡嘉敷　直美
●相談室だより　広瀬　君子
●花火鑑賞会　デイルームにて
●スタッフ紹介　大久保　悠里

１０月の予定

◇誕生日会
１病棟　１０月　３日（火）
２病棟　１０月　６日（金）
３病棟　１０月　２日（月）
各病棟デイルーム　１４：００～

★秋祭り　10月21日(土)院庭にて

花火鑑賞会　３病棟

この夏は誕生会に花火鑑賞会が同時開催されました。９月は３病棟での開催です。見慣れぬ雰囲気に皆さんソワソワ！

特製大スクリーンと大音量のド迫力に大歓声が上がります。席を立つ人も無く、皆さん超集中してご覧頂きました。

スタッフ紹介

２病棟介護員
大久保（おおくぼ）　悠里（ゆり）
星座：ふたご座
趣味：お菓子作り
特技：スキー

８月に入職して２か月が経ちました。初めは色んな不安などがあり、やっていけるか心配でしたが、先輩たちのサポートもあり、楽しく仕事をさせてもらっています。まだまだ覚えることもたくさんあり、毎日迷惑をかけてしまっていますが、出来るだけ早く自立できるように、これまで以上に考えて行動して、患者さんや先輩方の役に立つスタッフになれるように頑張っていきたいと思います。

病院短信

『100歳の薬剤師さん』

3病棟　看護師長　　宮川　妙子

今年は観測史上最も暑かった夏と発表されたそうです。温暖化の次に迫る、地球沸騰の予兆がして恐ろしくなります。異常気象と毎年言われていますが、9月中旬になっても真夏日の残暑が続いています。それでも、蝉の声から、いつの間にか涼しげな秋の虫の声が聞かれる季節になりました。

さて、9月18日は「敬老の日」。そして、その前後の1週間を「老人週間」として、お年寄りの社会参加や健康長寿社会の促進等、様々な啓発活動が行われます。当院の患者さんの年齢層は、85才～89才が35名、90才～94才が32名、95才～99才が14名、最高齢は102才です。85才以上が全体の5割を占めています。患者さんの生きる力に驚きを感じ、ご家族のご支援、ご協力にいつも感謝しています。全国の100才以上の高齢者は9万2000人余りで、その90％近くを女性が占めているそうです。また、国勢調査によると、100才以上で仕事に就いている人数は、2010年に200人だったのが、2020年には406人まで増加しています。性別では、女性が255人、男性が151人と女性が6割を占めています。まさに、人生100年時代となりました。今回、私が驚いた話題をご紹介したいと思います。

東京で薬局を営んでいる幡本さんは今年101才を迎えましたが、現在も薬剤師として週に6日店頭に出て、薬の処方などを行っています。なんと、ギネス世界記録で世界最高齢の薬剤師と認められたそうです。幡本さんはインタビューで、「この仕事が好きです。店にいらした方と話しをしていると今でも学ぶこともあるし、楽しくていい職だと思います。仕事を持っていて本当に良かった、皆さんも趣味でも仕事でも何か続けられるものを持って頑張って欲しいです。」と言っていたのが印象的でした。健康を維持するために毎朝ストレッチをし、遠方に住む方から薬の注文があった場合は、手紙を書いて感謝の言葉を伝えるようにしているそうです。

100才以上で仕事を続けられる身体を維持していることは勿論ですが、仕事を楽しいと感じ、今でも学ぶことがあるというポジティブな生き方に頭が下がります。私達は、年齢を言い訳にして諦めてしまうことがありますが、とても勇気づけられました。

患者さんがその人らしく穏やかな生活を送れるように、私たちスタッフも楽しみながら、患者さんと共に年齢を重ねていきたいと思います。

相談室　だより

医療相談員　　広瀬　君子

人は人　我は我

今年の夏は猛暑日が続き、なかなか涼しい日が訪れませんでしたが、最近ようやく朝晩過ごしやすくなり、秋めいてきたように感じます。

ところで、「あの人と比べて私は…」とか「私はこの人よりも…」などと、何かと他人と比べてしまうということはありませんか？私はついつい比較してしまい、その結果、卑屈になってしまうことがあります。

毎月、ノア smile の「日常の一コマ」を読んでいると、当院に入院されている患者さん達は、生まれ育った環境も就いた職業も認知症の症状も千差万別、多少似ている点があることもありますが、そこに優劣はなく、人それぞれ違って当然だと思います。

以前当院に入院されていた 100 歳を越えた患者さんの口癖が「我は我、人は人」でした。私も、この人生の大先輩の口癖を見習いたいです。そして、患者さんが入院生活を少しでも穏やかに過ごせるように、微力ながらお手伝いできればと思っています。

日常の一コマ

今月は1病棟の昭一さん（95歳）をご紹介します。昭一さんは千葉県で3人兄弟の第2子として生まれました。卒業後は溶接の仕事に就き、30代で独立、鉄工所を60代まで営んでいたそうです。結婚は24歳で3人の子宝に恵まれました。鉄工所を辞めたあとも、知人に頼まれると自分の技術を活かして作業を請け負ったり、手伝ったりしていたそうで…。昭一さんの人情深い一面が垣間見えますよね。

88歳の頃から物忘れが目立つようになり、同じ話をしたり、同じ物を何度も買ったりするようになりました。そして93歳の時、奥さんの入院を機に症状はさらに進行。コロナで面会制限もあったため、入院先のスタッフを大声で怒鳴ったり、徘徊しているところを警察に保護されたりするようになったそうです。ご家族が心配して病院受診を勧めたところ、アルツハイマー型認知症と診断されました。

奥さんが一緒にいると症状は落ち着くものの、昭一さんが一人で生活することは難しくなったため、一時的に近くの病院に入院することとなりました。入院後は向精神薬の調整や誤嚥性肺炎の治療を繰り返すようになり、施設への入所も検討しましたが、受け入れ先がなかなか見つからずに、当院への転院が決まりました。

入院当初の昭一さんは、突然怒り出したり、大声をあげたり、スタッフに対し暴言や暴力もみられていました。また、耳が聞こえにくいため、大声で一方的に話すことが多く、介護抵抗も強かったため、ケアを行う際はコミュニケーションカードを見せながら声をかけて行うようにしていたところ、今ではカードを使わなくても、排泄や入浴の介助を行うことが出来るようになりました。

最近の昭一さんは一人でお喋りをしていることが多いです。時には誰かに語り掛けるように、時には一人二役で会話をしているように。毎日話している内容は違うのですが、「～だそうですね」「～ですか」と穏やかな口調で話をしています。声が大きいのでスタッフも思わず聞き入ってしまい、クスっと笑ってしまうような話をしている時もあります。これからも昭一さんが穏やかに過ごせるように援助していきたいと思います。

1病棟看護師　　山口　しのぶ

いきいき看護・介護

3病棟介護主任　　渡嘉敷　直美

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋と楽しみの多い季節がやってきました。病院では8月に業務改善が行われ、午後3：30～散歩の時間が組み込まれました。8月の暑い最中だったので、なかなか外に出ることも出来ずに談話室でのカフェタイムの日が続きました。カフェでは無料で提供されることになったアイスクリームや飲み物に、患者さんたちは楽しみが一つ増えたようでした。普段は「散歩に行きましょう」と声をかけても「面倒臭い」と断る患者さんも、「アイスを食べに行きませんか?」と声をかけると「せっかくだから行くか」と散歩に付き合ってくれます。また、普段は炭酸飲料を飲む機会がない患者さんが、この時ばかりとコーラを注文して280ml のペットボトルを一気飲みして満面の笑みを見せてくれます。

これから気候も良くなってくるので、院内だけでなく外に出る機会を増やし、季節を感じてもらえたらと思っています。そして10月といえばセントノア恒例の秋祭りが開催されます。たくさんの屋台、各病棟の出し物、様々な企画が予定されています。病棟では本番に向けて患者さんとの練習が始まります。短時間ですが、患者さん、ご家族、スタッフが楽しく盛り上がるものになればと思っております。ご家族の皆様の参加をお待ちしております。